

1 総合的な学習の時間における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 総合的な学習の時間の目標

<小中・総合的な学習の時間 第1>

(ア)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、(イ)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、(ウ)学び方やものの考え方を身に付け、(エ)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、(オ)自己の生き方を考えることができるようにする。

- ・従前のねらいを踏まえながら、これまでも大切にしてきた「探究的な学習」を行うことや、新たに「協同的」に取り組む態度を育てることを明らかにして構成した。
- ・国が示す目標を踏まえ、より具体的な目標や内容は、各学校において定めることを明確にした。

(2) 確認事項

<小中・総則 第3の5>

総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

<小中・総合的な学習の時間 第3の1の(7)>

各教科、道徳、外国語活動及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと。

- ・総合的な学習の時間で、補充学習のような特定の教科の知識や技能の習得を図る学習活動が行われていたり、運動会の準備などと混同された学習活動が行われていたりなどしている事例が見られた。これらについては、総合的な学習の時間としてふさわしくないものである。
- ・総合的な学習の時間と特別活動との関連については、総合的な学習の時間において体験活動を実施した結果、学校行事として同様の成果が期待される場合のみ、特別活動の学校行事を実施したと判断してもよいことを示しているものである。特別活動の学校行事を総合的な学習の時間として安易に流用して実施することを許容しているものではない。

<小・総合的な学習の時間 第3の2の(7)>

国際理解に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。

- ・スキルの習得に重点を置くなど単なる外国語の学習を行うことは、総合的な学習の時間にふさわしくないものである。ただし、このことは、総合的な学習の時間の目標を踏まえて行われる国際理解に関する学習の中で、外国語に触れる活動を行ってはならないということではない。

2 各学校における指導上の留意事項

(1) 全体計画の作成 <今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開指導資料 p64～73>

小・中学校 総合的な学習の時間

- ① 各学校において定める目標
 - ・第1の目標を構成する5つの要素を踏まえる。(1(1)にあるア～オ)
 - ・地域の特性や学校や児童生徒の実態，特色を生かし，各学校の創意工夫ある学習が展開されるように設定する。
- ② 育てようとする資質や能力及び態度 (どのように学ぶのか)
 - ・各学校の児童生徒の実態を踏まえ，3つの視点に配慮して設定する。

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
児童生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的，創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点	児童生徒自身の生活や行為の在り方，あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点	他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点

- ③ 各学校において定める内容 (何を学ぶのか)
 - ・内容として，各学校の目標の実現のためにふさわしい学習課題を設定する。
 - ・学習課題は，どんな対象(学習対象)と関わり，その対象との関わりを通して何を学ぶのか(学習事項)を示すものである。

(ア) 国際理解，情報，環境，福祉，健康などの横断的・総合的な課題 (イ) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 (ウ) 地域や学校の特色に応じた課題 (エ) 職業や自己の将来にかかわる課題(中学校のみ)

- ・学習課題は，学習対象や学習事項によって，具体的・分析的に示すことが考えられる。

(2) 学習指導〈今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開指導資料 p17～47〉

- ① 探究的な学習の充実
 - ・これまで行ってきた活動等を探究的な学習の過程に適切に位置付ける。
※高等学校版には，小中学校の学習活動例よりも多く掲載される。
- ② 「課題の設定」と「整理・分析」の場面の充実
 - ・課題の設定においては，児童生徒の内なる問いを顕在化させ，「何のために学ぶのか」という目的意識を持つことができるように，教師の指導性を発揮する。
 - ・整理・分析においては，児童生徒にどのような思考を行ってほしいのかによって，適切な思考ツールを与えることも大切である。

(3) 評価

- ① 評価の観点を決める際の留意点
 - ・総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点
 - ・各学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点
 - ・各教科の評価の観点との関連を明確にした観点
- ② 評価規準の設定方法
 - ・各学校の全体計画を基に，単元で実現が期待される「育てようとする資質や能力及び態度」と「内容」を設定する。
 - ・各観点に即して実現が期待される児童生徒の姿が，単元のどの場面のどのような学習活動において，どのような姿として実現されるかをイメージする。
 - ・実現が期待される児童生徒の姿について，実際の学習活動の場面を想起しながら，「育てようとする資質や能力及び態度」と「内容」に照らし合わせて，具体的に記述する。